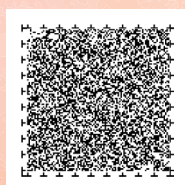




Project Of Fukuoka

令和7年度 福岡市 主要施策概要



■令和7年度の施策推進にあたって

福岡市では、新たに策定した「第10次福岡市基本計画」において「生活の質の向上」と「都市の成長」の持続的な好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略として掲げ、「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市」の実現を目指してまちづくりを進めています。

この「主要施策概要」では、基本計画に掲げる8つの分野別目標と、実施計画にあたる「政策推進プラン」において、今後4年間に特に力を注ぐべき重要性の高い施策分野として設定した4つの重点分野に分けて、令和7年度に取り組む事業を詳しく紹介しています。

4つの重点分野(政策推進プラン)

- ① 誰もが自分らしく生きられる共生・共創の地域づくり
- ② 次代を担う子どもの育成と若者の活躍推進
- ③ 地域経済に活力を生む観光・MICEの推進と都心部機能の充実強化
- ④ スタートアップ等による新しい価値の創造

8つの分野別目標(基本計画)

生活の質の向上

- ① 一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝くまちづくり
- ② すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長できるまちづくり
- ③ 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らせるまちづくり
- ④ 人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられるまちづくり

都市の成長

- ⑤ 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちたまちづくり
- ⑥ 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれるまちづくり
- ⑦ チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化したまちづくり
- ⑧ アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感があるまちづくり

●FUKUOKA NEXT

「FUKUOKA NEXT」は、この元気で住みやすいまちをさらに発展させ、将来に引き継いでいくために、福岡市を次のステージへと飛躍させる、様々なチャレンジの総称です。

この取り組みを果敢に進めることで、「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市」の実現を目指します。

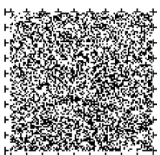


●福岡市のSDGsの取り組みについて

SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略で、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする17の国際目標です。



福岡市では、多くの市民の皆様とともに策定した「福岡市総合計画」に基づき、経済的な成長と心豊かな暮らしのバランスが取れた持続可能な都市づくりを進めることにより、SDGsの達成に取り組んでいます。



1 誰もが自分らしく生きられる 共生・共創の地域づくり

人生100年時代の到来を見据え、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けることができるよう、地域拠点の拡充や相談窓口の新設に取り組むとともに、街中に花やみどりを増やすことで彩りと潤いを与え、市民が心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。

また、年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、多様な市民が互いに理解し合いながら共生し、誰もが心身ともに健康で活躍できる社会の実現を目指します。

花と緑があふれるまち

●公共施設の緑化推進

市庁舎をはじめとした公共施設等における壁面緑化などにより、みどりあふれた空間を創出するとともに、民間建築物を先導する緑化に取り組みます。

予算 9億8,363万円

●地下空間の緑化

全市的な緑化推進施策に合わせ、通勤・通学や観光など利用者の多い駅(天神駅、博多駅、福岡空港駅)において、壁面等を利用した印象的な緑空間の創出に取り組みます。

予算 2億9,682万円

●民有地の緑化促進(グリーンビル促進事業)

マンションのベランダや都心部のオフィスビル等の緑化への助成制度を創設するとともに、容積率緩和制度も活用し、緑化を促進します。



イメージ

イメージ

予算 1億2,662万円

●一人一花運動の充実

花・みどり活動の拠点機能強化として植物園リニューアルを進めるなど、まちに彩りと潤いを与え、人のつながりや心の豊かさを生み出す一人一花運動の輪を広げ、花による共創のまちづくりを進めます。



予算 4億7,880万円

●Fukuoka Flower Showの開催



花をテーマとしたMICEとして「Fukuoka Flower Show 2026」を令和8年3月に福岡市植物園で開催します。

予算 9,070万円

福岡 100

●福岡100の推進



人生100年時代の到来を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく活躍できる社会をめざす「福岡 100」を、産学官民オール福岡で推進します。

●福岡100プラザのリニューアル

福岡100プラザを高齢者の社会参加の拠点施設として位置づけ、高齢期の社会参加、元気な活躍を応援する拠点として、順次リニューアルします。

予算 7億5,824万円

●ベンチプロジェクトの推進

高齢者や体の不自由な人をはじめ、誰もが安心して外出できる環境をつくるため、これまで歩道幅が狭く設置できなかったバス停のうち約250箇所に細型ベンチなどを設置することで、ベンチプロジェクトの更なる推進に取り組みます。

予算 8,700万円

●ユマニチュードのさらなる普及促進

認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」について、高齢者施設などにおけるエビデンス調査の実施や海外への発信拠点の創設など、さらなる普及促進を図ります。



予算 1億1,188万円

●海外からの介護人材の確保

日本人だけでなく、海外からの人材確保にも取り組むための新たな拠点を開設し、海外への広報活動や交流促進、介護事業所からの相談体制の充実などに取り組めます。

予算 989万円

●福祉の総合相談窓口の全区設置

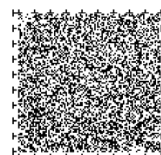
全区に福祉の総合相談窓口を設置し、福祉に関する様々な課題を抱えた方への相談支援を行います。

予算 8,162万円

●強度行動障がい者を支援する人材の育成

事業所を支援するため、強度行動障がいのある方の支援に関するアセスメントや環境調整を図る人材を育成します。また、状態が悪化した強度行動障がいのある方の支援を行っている事業所に対し、専門人材を派遣する仕組みを構築します。

予算 500万円



●障がい者スポーツセンターの機能強化等検討

現在の社会的ニーズに対応した、障がい者スポーツ振興の拠点施設とするため、老朽化への対応策と合わせて、機能強化に向けた検討を進めます。

予算 2,000万円

多文化共生社会の形成

●地域の多文化共生を推進

地域住民と在住外国人が、まちづくりや交流について一緒に話し合う場を設けるなど、日本人にも外国人にも住みやすい多文化共生の取組みを推進します。

予算 900万円

●外国人児童生徒へオンラインで日本語授業を実施

日本語学習が必要な外国人児童生徒への対応のため、1人1台端末を活用したオンライン授業を実施します。

予算 836万円

2 次代を担う子どもの育成と若者の活躍推進

給食費の無償化や未就学児の検診拡充など、子育て世帯の負担や不安を軽減するとともに、社会全体で子どもや子育て家庭を見守り、子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくりに取り組みます。

また、職業体験機会の創出や学びの多様化に取り組み、子どもや若者一人ひとりが将来に夢や希望を抱きながら自己実現に向けてチャレンジできるまちづくりを進めます。

健やかなこどもの育成

●学校給食費の無償化

子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、食材料費の物価高騰分の公費負担を継続するとともに、2学期から学校給食費を無償化します。

予算 44億864万円

●1か月児・5歳児健診を開始

これまでの乳幼児健診(4か月、10か月、1歳6か月、3歳)に加えて、1か月児健診及び5歳児健診(試行)を開始し、出生後から就学前まで切れ目のない健康診査を実施します。

予算 4億99万円

●体育館空調整備事業

教育環境を向上させるとともに、避難所としての環境を改善するため、すべての市立学校の体育館にリース方式で空調を整備します。令和7年度は、特別支援学校と一部の小学校に設置し、令和9年度までの3年間で整備を完了します。

予算 4,531万円

●水泳授業における民間プール等活用を拡大

民間プール等活用を本格実施に移行し活用校を拡大(4校→37校)するとともに、学校プールで水泳授業を実施する小学校に指導補助員を派遣します。

予算 3億681万円

●教育データ連携基盤の構築

教育データを効果的に活用し、個別最適な学びと効果的な教育施策の立案を推進するため、データの集約や連携を安全かつ効率的に行う「教育データ連携基盤」を構築します。

予算 1億5,606万円

サポートを必要とする子どもたちの支援

●産前・産後サポートの充実

産後ケア事業(宿泊型・日帰り型)の実施場所を拡大するとともに、産前・産後ヘルパー派遣事業の利用要件を緩和します。

予算 3億3,318万円

●教育支援員配置事業

不登校や不登校傾向にある児童の登校を支援し、学校生活の中の見守りを行う教育支援員の配置校を増やします。(28校→40校)

予算 2,404万円

●学びの多様化学校の開校

不登校生徒等を対象に特別な教育課程を編成して教育を実施する「百道松原中学校」を開校・運営します。

予算 3,487万円

●自閉症・情緒障がい特別支援学級の整備

対象となる児童生徒数の増加等に伴い、自閉症・情緒障がい特別支援学級を設置する学校を大幅に拡大します。

予算 5億9,495万円

●通級指導担当教員による巡回指導

自閉症等により特別な支援を必要とする児童生徒に対して、担当教員による巡回指導を試行実施します。

予算 3,293万円

●特別支援学校高等部の開校

知的障がいのある生徒の将来の自立を促すため、職業教育に重点を置いた教育を行う、就労支援に特化した「城浜高等学園」を開校・運営します。



予算 5,651万円

次代を担う若者の支援

●中高生の多様な職業体験機会等の創出

地場企業や大学・専門学校等と連携し、中学生・高校生が将来について考える機会を創出します。

予算 300万円

●中小企業奨学金返還支援事業

従業員への奨学金返還支援制度の導入を促進するとともに、制度を導入している市内中小企業等に対し企業負担額の一部を助成します。

予算 3,000万円

3 地域経済に活力を生む観光・MICEの推進と都心部機能の充実強化

地域経済の活性化のきっかけとなる交流人口の増加に向けて、福岡市の自然や歴史、文化を生かしながら、質の高い観光振興やMICEの誘致に取り組みます。

また、都心部機能の更新や交通ネットワークの充実・強化と合わせて、都市空間に緑やアートを取り入れ、多くの人や企業から選ばれる魅力あるまちづくりを進めます。

自然や歴史等を生かした観光振興

●西のゴールデンルート等への誘客



新たなJAPANを開拓せよ。

欧米豪等からの誘客を図るため、海外Webメディアを活用した情報発信や国内大型イベントの機会を捉えたPR等により、西日本・九州の自治体等と連携した、西のゴールデンルート等の取組みを推進します。

予算 9,920万円

●福岡城天守の調査

福岡城のかつての状況を確認するため、天守に関する文献調査や発掘調査等を実施します。



予算 4,823万円

●鴻臚館整備・活用事業

歴史文化の発信、観光・MICEの拠点としての活用を目指し、鴻臚館北館東門や塀の一部の復元整備等に取り組みます。



鴻臚館東門イメージ

予算 6億2,983万円

●はかた伝統工芸館の機能強化

はかた伝統工芸館の博多旧市街エリアへの仮移転を機に、伝統工芸の体験機能を強化し、観光客向けの魅力向上を図ります。

予算 5,746万円

●博多旧市街プロジェクト



博多旧市街エリアにおいて、歴史・伝統文化に配慮した趣のある道路整備を行うとともに、博多旧市街フェスティバルの開催や博多川を活用した賑わい創出、観光拠点の検討等に取り組みます。

予算 1億8,624万円

●海辺を活かした観光振興



志賀島・北崎地区において、海辺の観光周遊促進に向け、自然環境と調和した道路整備やインバウンドの滞在促進、志賀島地区における市営渡船と連携したイベント開催、北崎地区における立ち寄りスポットの整備等を進めます。



市営渡船と連携したイベント

予算 7億4,530万円

●那珂川沿いの魅力向上

Park-PFI制度を活用した清流公園の整備や、那珂川沿いの護岸のライトアップなど、魅力的な水辺空間の創出に取り組みます。



エリア図



清流公園整備イメージ

予算 7億4,182万円

●福岡型ワーケーション推進事業

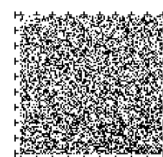
国内を代表するデジタルノマドの拠点都市として、世界中のデジタルノマドが集結する国際カンファレンスの開催や、海外キーパーソンの影響力を活かした情報発信等により、さらなる誘客に取り組みます。

予算 6,090万円

●アートなベンチの設置

天神・博多の道路空間にアーティストがデザインしたベンチを設置します。

予算 1,350万円



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです。

天神ビッグバン

天神未来創造



航空法高さ制限の特例承認や市独自の規制緩和などによる、耐震性の高い先進的なビルへの建替えとあわせ、更なる緑化の推進など、緑や水辺、文化芸術、歴史などが持つ魅力に磨きをかけ、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりに取り組みます。

① 天神1-7計画



② ONE FUKUOKA BLDG.



③ 天神ビジネスセンターⅡ期計画



イメージパースは、計画中のものも含まれるため、今後変更になる可能性があります。

博多コネクティッド



交通基盤の拡充とあわせ、規制緩和などによって耐震性が高い先進的なビルへの建替えを誘導し、駅周辺地区との回遊性の向上や、多様な個性や豊かさを感じられるまちづくりに取り組むことで、博多駅の活力と賑わいを周辺につなげていきます。

① 西日本シティ銀行本店本館



イメージパースは、計画中のものも含まれるため、今後変更になる可能性があります。

② 博多駅前三丁目プロジェクト



市庁舎周辺道路の再整備

更新時期を迎えている市庁舎周辺の道路について、まちづくりによって生み出される空間と調和した、みどり豊かで賑わいを感じる道路整備に向けた検討に取り組みます。



予算

1,200万円

九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり



FUKUOKA Smart EAST

地域と共に創り上げたグランドデザインの実現に向け、先進的なまちづくり「Fukuoka Smart East」に取り組むとともに、まちづくりに関する調整や土地区画整理事業等の基盤整備などを進めます。

予算

34億226万円

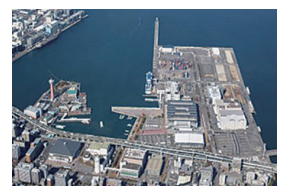
【優先交渉権者の提案概要】

- 多様なスマートサービス（安全、健康、移動、防災、エネルギー・環境、水素活用 など）
- 6つの都市機能（交流・にぎわい、業務・研究、医療・福祉、教育 など）
- ゆとりある都市空間（緑豊かな歩行者ネットワークや広場空間 など）
- まちの魅力を上させる継続的なまちづくりマネジメント



ウォーターフロント再整備の推進

貴重な海辺空間などを生かした、市民や来街者が楽しめる、魅力あるまちづくりに向けた検討を行います。



予算

2,200万円

4 スタートアップ等による新しい価値の創造

人々の価値観や社会のニーズの変化に対応するため、先進技術を活用した社会課題の解決に取り組むとともに、地場企業のチャレンジを支援するなど、産業の振興と雇用の創出を図ります。

また、世界で活躍するグローバル人材やその家族にも住みやすいまちづくりを推進し、継続的にイノベーションが生まれるアジア有数のスタートアップ拠点都市の形成を目指します。

水素リーダー都市プロジェクト

福岡市水素ステーションの運営

福岡市水素ステーションの運営や設備改修を行うとともに、九州大学箱崎キャンパス跡地に整備する水素ステーションへの水素の出荷に向けた検討等を実施します。



予算

1億7,339万円

●水素自動車(FCモビリティ)の導入促進

Moving e等を活用した水素の普及啓発やごみ収集車の導入及び救急車の実証のほか、再生可能エネルギーを用いた水素供給の拡大に向けた検討等を実施します。



予算 2億2,795万円

●まちづくりへの水素実装

九州大学箱崎キャンパス跡地において、水素ステーションの整備に向けた用地取得や、水素供給パイプラインを整備するとともに、ステーション及びパイプラインの事業者公募等を実施します。



予算 8億2,309万円

Fukuoka Art Next

●Artist Cafe Fukuokaの機能強化

アーティストの成長・交流拠点として、相談対応や企業マッチング、制作や展示及び海外出展の機会提供、イベントなどを実施するとともに、滞在・交流しながら制作活動ができるよう、旧舞鶴中北校舎の改修工事を実施します。



予算 3億9,960万円

●福岡アジア美術館の魅力向上

コレクション展の強化や、アジア現代美術の現地調査を実施するほか、警固公園地下への施設拡充に向け、基本計画の策定や最適事業手法等の検討を実施します。

予算 2億1,165万円

●スタートアップ支援施設の運営等

福岡市のスタートアップエコシステムを代表し牽引するスタートアップを輩出するため、スタートアップカフェとスタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」を運営し、スタートアップ企業のさらなる成長や既存中小企業の第二創業を促進します。

予算 3億4,838万円

●ふるさと納税を活用したソーシャルスタートアップ成長支援

ふるさと納税を活用し、社会課題解決を目指すスタートアップの経営基盤強化にかかる取組みを支援します。

予算 4,192万円

●グローバルスタートアップ推進事業

海外スタートアップ拠点との連携を活かした国際ビジネスマッチングイベントの開催及び発信力強化を行うとともに、海外展開支援プログラム等により、グローバルに活躍できる創業環境づくり及びビジネス支援を実施します。



イベントの様子

予算 1億6,903万円

●エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進

エンジニアカフェにおいて、先端技術やビジネス等の知見に長けたスタッフを配置し、サービス設計等を支援するとともに、エンジニアの育成・発掘に繋がるイベント等を実施し、新サービス・新製品の創出を促進します。

予算 1億332万円

●高度外国人ITエンジニア採用支援事業

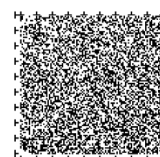
市内IT企業に対し、高度外国人ITエンジニアの採用・日本語教育を支援します。

予算 750万円

●国際金融機能・外資系金融機関等の誘致推進

国際金融に対応したワンストップ窓口の運営や、外資系金融機関等を対象にしたプロモーション等を実施します。

予算 6,803万円



このマークは目の不自由な方などが
使う音声コードです。

「生活の質の向上」と「都市の成長」の持続的な好循環

福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動呼び込むことで都市が成長し、その成長の果実によりさらに生活の質を高めるという持続的な好循環を創っていきます。

ここからは、この好循環を創り出すための8つの分野別目標について、各事業を詳しく紹介します。

生活の質の向上

1 一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝くまちづくり



多様な市民が輝く ユニバーサル都市・福岡の推進

●ユニバーサル都市・福岡の推進

誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちの実現をめざし、市民や企業等へのユニバーサルデザインの普及啓発等に取り組めます。



ユニバーサル都市・福岡
UNIVERSAL FUKUOKA CITY

予算 789万円

●バリアフリーのまちづくり推進

施設のバリアフリー化や、心のバリアフリーの推進など、ハード・ソフト一体的なバリアフリー化に官民連携して取り組めます。また、「福岡市バリアフリー基本計画」「施設整備マニュアル」の改定を行います。

予算 1,555万円

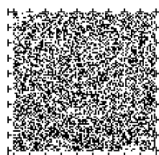
●認知症の人にもやさしいデザインの拡充

認知症の人にもやさしいデザインの普及を促進するとともに、認知症の人の行動の手助けとなるサインを作成・検証します。

予算 462万円

●性的マイノリティ支援事業

パートナーシップ宣誓制度の推進や交流事業の実施など当事者等への支援を行うとともに、講演会やふくおかLGBTQフレンドリー企業登録制度の推進など啓発に取り組めます。



予算 684万円

●インクルーシブな子ども広場の整備

誰もが自分らしく遊べる、インクルーシブな子ども広場の整備を進めます。(アイランドシティ中央公園、東平尾公園、かもめ広場、今津運動公園)



整備後の百道中央公園

予算 6億5,554万円

一人ひとりが健やかで 心豊かに暮らせる社会づくり

にはち

●オーラルケア28プロジェクト

将来の要介護状態を予防するため、ガムを活用し、咀嚼への意識向上を図る「噛む活」を新たに実施します。

予算 7,265万円

●Fitness Cityプロジェクトの推進

令和7年度から、天神地区において新たに「歩きを促す、歩いて楽しい空間づくり」に取り組めます。



歩きを促すための休憩スポットの整備事例
(博多駅前2丁目)

予算 7,800万円

●子どもたちが文化芸術を体験する機会の創出

小学校を対象としたアーティスト派遣や観劇招待、美術館等での対話型アート鑑賞体験などのほか、障がいのある子どもたちへの観劇招待や音楽イベントを実施します。

予算 598万円

●福岡市民ホールの運営等

令和7年3月に開館した福岡市民ホールにおいて、多彩な芸術の鑑賞や市民の文化芸術活動等の場の提供などに取り組むとともに、須崎公園を一体的に整備・活用することで、みどり溢れ人々が集う空間を形成します。



FUKUOKA CIVIC HALL
福岡市民ホール



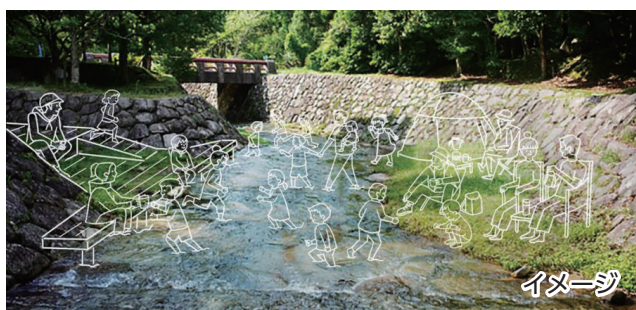
予算 17億6,608万円

●今宿野外活動センターのリニューアル

誰もが気軽に自然体験ができる魅力的なセンターとなるよう、民間活力を導入し、令和9年3月のリニューアルオープンに向けた設計・施工に着手します。



イメージ



イメージ

予算 3億9,304万円

●ボートレース福岡パーク化

ボートレース場の施設を有効活用し、スケートボードパークやイベント広場などの整備を進めます。(令和8年10月供用開始予定)



イメージ

予算 7億6,806万円

●アートイベント「FaN Week」の開催

美術館やアジア美術館、Artist Cafe Fukuokaに加え、民間企業と連携して様々なアート作品を展示するとともに、作品鑑賞だけでなく作品購入やアーティストとの交流といった様々なアートの楽しみ方を市民等に提供する「FaN Week」を開催します。

FaN

Fukuoka Art Next

予算 8,134万円

2

すべての子ども・若者が夢を描きながら
健やかに成長できるまちづくり



社会全体で子どもを見守り、
子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり

●おむつと安心定期便

0～2歳時の子育て家庭を見守りながら、定期的におむつ等をお届けします。

予算 12億351万円

●保育士等の大幅な処遇改善

保育士等の処遇改善に向け、人事院勧告を踏まえた公定価格の引き上げに対応します。

予算 39億3,915万円

●児童発達支援センターでの一時預かり事業

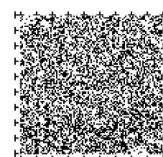
障がい児を育てる保護者の就労を支援するため、民間を含む全ての児童発達支援センターにおいて、療育終了後の一時預かりを実施します。

予算 9,583万円

●ドリームナイト・アクアリウム

未就学の障がい児家族を対象に、周囲に気兼ねなく楽しんでもらう水族館貸切イベントを実施するとともに、イベントの実施を通して、普段から障がいに配慮した運営を行えるよう施設への支援を行います。

予算 653万円



このマークは目の不自由な方などが
使う音声コードです。

●里親支援センターの開設

家庭養育の推進による児童の養育環境の向上に向け、里親のリクルートから委託後の支援までを包括的に行う里親支援センターを、令和7年4月に開設しています。

予算 6,471万円

●若者へのライフデザイン支援

若者が出産や子育ての具体的なイメージを持つための支援や、県や民間事業者と連携した婚活支援を実施します。

予算 500万円

●南部療育センターの開設

相談・診断・療育までを一体的に行う障がい児療育の中核施設を、博多区三筑に令和7年4月に開設しています。



予算 4億6,598万円

自ら学び続け、他者を尊重し、
協働できる子どもの育成

●アイランドシティ地区へ中学校を新たに整備

アイランドシティ地区新設中学校の開校に向けた基本設計等を実施します。

予算 6,258万円

●教員の奨学金返還を支援

令和8年度から、特別支援学校教諭免許状を有する新規採用者に対して、採用後3年間にわたり奨学金の返還を支援する事業を創設します。令和7年度は、助成開始に向けた広報を実施します。

予算 22万円

将来に夢や希望を抱き、
意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成

●学校施設活用型体験プログラムのモデル実施

小学生を対象に、放課後に身近な学校で社会・文化・自然などの様々な体験ができるプログラムを3校でモデル実施します。

予算 2,727万円

3

地域の人々がつながり、支え合い、 安全・安心に暮らせるまちづくり



つながりと支え合いの基盤となる
地域コミュニティの活性化

●立ち寄りたくなる公民館プロジェクト

住民が参加したくなる事業を他の地域にも横展開することによる、公民館の活用促進や、デジタル技術を活用した公民館業務の効率化等の支援により、地域住民にとってより身近な公民館となることをめざします。

予算 3,950万円

●地域ポイント事業 ふくおかポイント

地域活動への感謝の気持ちをポイントとしてお渡しすることで、地域活動の活性化や支援につなげます。令和7年度はモデル校区を50以上に拡大します。

予算 6,072万円

生活の利便性が確保された
地域のまちづくり

●ノンストップ行政の推進

通知等のデジタル化やリモート窓口の機能拡充などにより、行政手続きにおける市民の利便性を向上します。

予算 1億1,148万円

●中央市民センターのリニューアル

施設の長寿命化、防災機能の強化やバリアフリー化などの改修工事に着手します。



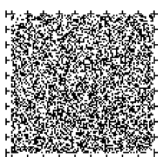
イメージ

予算 8億5,605万円

●南区における地域交流センターの検討

南区における地域交流センター整備に向けた整備候補地の造成にかかる測量や地盤調査等の実施、基本構想・基本計画の検討を行います。

予算 7,237万円



●持続可能な生活交通の確保

路線バスの休廃止に伴う公共交通空白地への代替交通を確保するとともに、オンデマンド交通社会実験の実施や、公共交通不便地等における取組みへの支援を強化します。

予算 1億4,891万円

●買い物支援の推進

地域と移動販売等を行う事業者とのマッチングを行うとともに、新たに、高齢者等のオンラインでの買い物を支援する「スマホでお買い物講座」を実施します。

予算 2,170万円

安全で快適な生活基盤の整備と 災害に強いまちづくり

●避難所の環境改善(TKB向上プロジェクト)

温かい食事の提供や移動式トイレの導入、簡易ベッド等の備蓄の拡充などにより、避難所におけるT(トイレ)・K(キッチン)・B(ベッド)の環境改善に取り組みます。



プライバシーが
確保された生活空間

予算 3億7,256万円

●地域防災計画の全面的な見直し

令和6年能登半島地震の教訓や社会情勢の変化、震災対処訓練の成果等を踏まえ、災害対策の実効性をさらに高めるため、地域防災計画の全面的な見直しに取り組みます。

予算 560万円

●要支援者の個別避難計画作成をスピードアップ

避難に支援を必要とする方が適切に避難できるよう、地域による個別避難計画策定にあたり、新たにコーディネーターを活用したきめ細かな支援を実施します。

予算 2,748万円

●民間建築物等の防災対策促進

建築物等の安全・安心の確保のため、耐震改修への助成を拡充するとともに、危険な擁壁や崖に対する防災対策等の工事費への助成等を新たに実施します。

予算 2億1,388万円

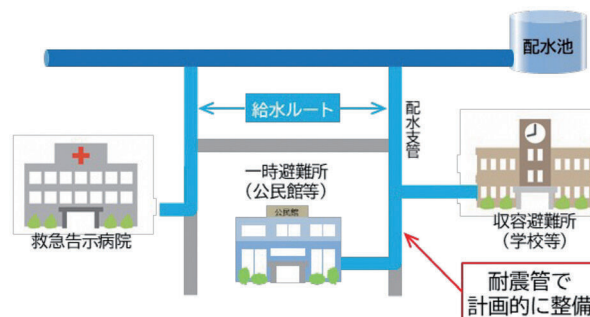
●公共施設の耐震化推進

緊急輸送道路における橋りょうの耐震補強工事、上下水道管路の耐震化等に取り組みます。

予算 131億1,624万円

●水道管の第2次耐震ネットワーク工事の推進

災害時においても水道水を安定供給できるよう、新たに一時避難所等を対象施設とし、給水ルートの耐震化を計画的に実施します。



耐震ネットワーク工事の概要

予算 7億8,046万円

●市営住宅における車いす使用者向け住宅の供給

誰もが安心して暮らせる居住環境づくりを行うため、市営住宅の建替えの際に、車いす使用者向け住宅の整備を推進します。



予算 164億686万円

●子育て世帯や高齢者世帯の住替えにかかる費用の助成

子育て世帯や高齢者世帯のより良い住環境への住替えを支援するため、市内の民間賃貸住宅等に転居する世帯に対し、住替えにかかる費用の一部を助成します。

予算 1億5,540万円

日常生活における安全・安心の確保と 地域福祉の推進

●民生委員の支援を拡充

住民の身近な相談役として地域福祉を担う民生委員の活動しやすい環境づくりに向け、活動費の増額や新任委員のサポート体制の創設など、支援を拡充します。

予算 3億8,849万円

●防犯カメラ設置補助制度の充実

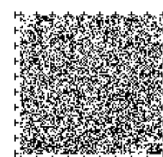
地域における防犯カメラの設置助成台数を拡大するとともに、助成手続きにかかる期間を短縮します。

予算 8,145万円

●带状疱疹ワクチン接種を開始

定期接種化した65歳以上(5歳刻み)に加え、市独自で50・55・60歳を対象に、接種費用を一部助成します。

予算 1億3,070万円



このマークは目の不自由な方などが
使う音声コードです。

●動物愛護管理センターの老朽化対応の検討

老朽化している動物愛護管理センターについて、市民が訪れやすく、動物福祉に配慮した施設とするために、役割や機能など、センターの方向性について検討を行います。

予算 600万円

●アイランドシティ新設出張所整備

アイランドシティにおけるまちづくり・みなとづくりの進展や人口の増加などによる消防・救急需要に的確に対応するため、新たに消防出張所を整備します。

予算 1億9,588万円

●消防学校機能強化

様々な災害への対応能力の向上を図るため、教育訓練を効果的・効率的に実施できる機能の強化に向けた施設整備を実施します。

予算 8億3,818万円

4

人と自然が共生し、身近に潤いと 安らぎを感じられるまちづくり



都市と自然が調和したコンパクトで 個性豊かなまちづくり

●農山漁村地域ブランディングプロジェクト

民間企業等のノウハウや販路を活用し、農山漁村地域の農水産物を使用した商品開発やPR等を実施します。

予算 800万円

●農山漁村地域など市街化調整区域の活性化

活性化に向けた地域主体の取組みを支援するとともに、国補助を活用した地域産業の振興に繋がる新たなビジネス創出支援などの取組みを実施します。

予算 5,000万円

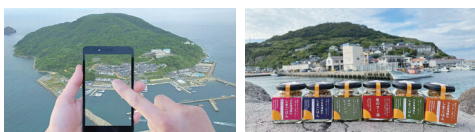
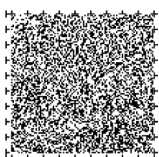
●農村地域みんなで支える農業プロジェクト

農村地域における人手不足の解消や農業の理解促進に向け、農村地域と市民をつなぐ農業体験・応援ツアーを実施します。

予算 867万円

●離島振興の取組み

インフルエンサーを活用した離島(小呂島・玄界島)の魅力発信等を行います。また、未婚者に出会いの場を提供することで、島の活性化に取り組みます。



予算 623万円

●花粉発生源対策関連事業

スギ・ヒノキ人工林の植替えを加速化するため、林業機械リース費等の市独自支援策をスタートするとともに、民間施設の木材利用の促進に取り組みます。また、花粉対策を着実に推進するため、新たな林道の開設に向けた検討に着手します。

予算 2億7,020万円

花や緑などによる潤いや 安らぎを感じるまちづくり

●早良運動公園の整備

ソフトボール等に利用できる多目的グラウンドを有する運動公園の整備に向けて取り組みます。

予算 3億3,651万円

●フォレストパーク事業

市民の貴重な財産である樹木を大切にするため、公共工事に伴い発生する移植木を活用して、自然が楽しめる風致公園の整備に着手します。

予算 3,437万円

持続可能で未来につながる 脱炭素社会の実現

●次世代型太陽電池(ペロブスカイト太陽電池)の普及促進

国産ペロブスカイト太陽電池の公共施設への導入及び民間施設への導入支援により、普及促進を図ります。

予算 2億3,700万円

●事業所の省エネ支援事業

市内事業所の温室効果ガス排出削減に向け、専門家派遣による省エネ最適化診断やCO₂排出量の算定支援を実施します。

予算 1,189万円

●電気自動車等の購入、充電設備設置補助

ガソリン車から電気自動車等への移行を推進するため、車両の購入費用の一部を補助するとともに、急速・普通充電設備への設置補助を拡充します。

予算 9,298万円

●バイオ燃料活用実証事業

バイオ燃料の利用を推進するために実施している実証事業について、貨物車等に加え、重機等も対象とします。

予算 601万円

●ECOチャレンジ応援事業

市民の脱炭素行動に対して、交通系ICカードへ1世帯あたり最大5,000ポイントを付与する取組みの募集参加世帯数を拡大します。

予算 1,974万円

●事業所の再生可能エネルギー電気の利用促進

事業所の再生可能エネルギー電気の利用促進に向けて、非化石証書の共同購入を実施します。

予算 283万円

循環経済の確立に向けた資源循環等の推進

●プラスチック分別収集導入に向けた取組み

令和8年度中のプラスチック分別収集導入に向け、収集運搬やりサイクル体制の構築に取り組むとともに、様々な媒体を活用した広報啓発を実施します。

予算 7,453万円

●地域や回収事業者と連携した古紙の出しやすい環境づくり

回収事業者が管理する新たな紙リサイクルボックスの設置による回収拠点の増設や、地域集団回収における回収事業者と連携した古紙回収の仕組みづくりに取り組みます。

予算 950万円

●清掃工場等への日曜日のごみ持ち込みが可能に

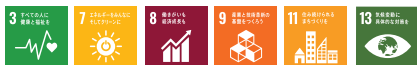
市民が可燃・不燃ごみをごみ処理施設に直接持ち込む「自己搬入」の受入を、平日、土曜祝日に加えて、毎週日曜日にいずれかの施設で実施します。



予算 2,995万円

都市の成長

5 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちたまちづくり



観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進

●観光と市民生活の調和

インバウンドの受入におけるマナー啓発等を強化するとともに、まちなかや公共交通における混雑防止に向けた手ぶら観光の推進等に取り組みます。

予算 6,907万円

人々を魅了するエンターテインメント都市づくり

●クリエイティブ関連産業の振興

ゲーム、映像、ファッションをはじめとしたクリエイティブ関連事業者のビジネス拡大や、人材育成及びクリエイティブ・エンターテインメント都市としての情報発信に取り組みます。

また、福岡ゲーム産業振興機構20周年イベントを開催することで、ゲームクリエイターの育成やゲーム都市としてのPRを行い、企業及びクリエイター人材のさらなる集積を図ります。

予算 1億1,632万円

6 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれるまちづくり



様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり

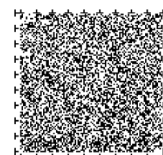
●アイランドシティ整備推進

今後の土地引渡に向けた土地造成や基盤整備を進め、国際物流拠点の形成や、海とみどりを活かした快適な居住空間の形成など、アイランドシティのみなとづくり・まちづくりを推進します。

今年でまちびらき20周年を迎えるため、産学官が連携して記念事業等を実施します。



予算 70億4,364万円



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです。

●福岡市博物館リニューアル推進事業

幅広い観光客をターゲットとした拠点機能の向上を目指し、リニューアルに向けた事業者の公募手続きを進めるとともに、南側広場の改修に着手します。



予算 23億5,955万円

●九大新町における研究開発拠点の形成

「産学連携交流センター」及び「いとLab+」を中心として、九州大学等と連携した研究開発拠点の機能強化を図り、大学の研究シーズを活用した事業化の支援に取り組むなど、新産業・新事業の創出を図ります。

予算 1億6,807万円

公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築

●地下鉄の車両更新・増備、混雑緩和

七隈線車両の増備や、空港線・箱崎線車両の新型への更新に加え、ドームイベント時の混雑緩和のため、唐人町駅に改札口を増設します。



新型車両への更新

予算 61億9,895万円

●駅的全館冷房化の推進

地上駅を除く全駅に全館冷房を拡大します。令和7年度は六本松駅への設置及び他駅の設計を実施します。

予算 1億8,452万円

●都心部の混雑緩和に向けた空き駐車場への誘導

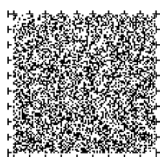
駐車場の空き待ちによる渋滞や、空き駐車場を探し回る「うろつき交通」を軽減するため、スマートフォン等で駐車場の空き状況などを確認できる満空情報システム「福岡市駐車場ナビ天神版」の運営及び拡充に取り組みます。



予算 3,700万円

●都心部交通対策の推進

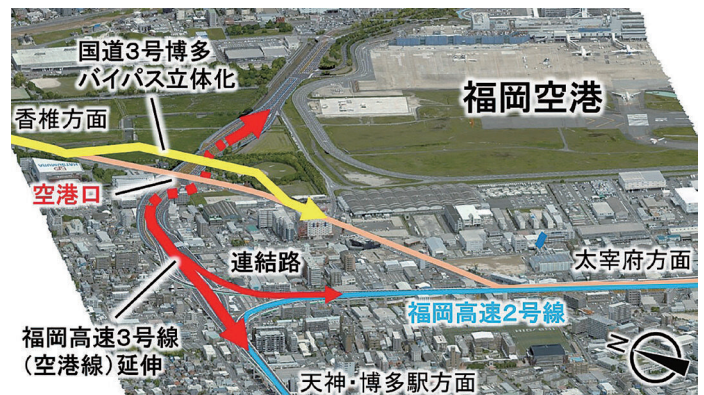
フリンジパーキングの利用促進策の一つとして、利用料金を下げた場合の利用動向を把握し、今後の利用拡大につながる社会実験等を行います。



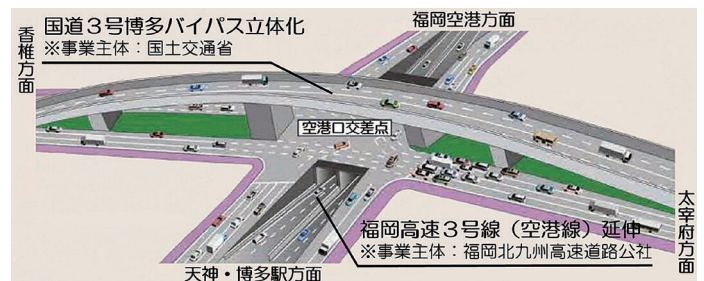
予算 3,297万円

●福岡高速3号線(空港線)延伸事業

福岡市の南部地域や太宰府方面から福岡空港へのアクセス強化を図るため、福岡高速3号線延伸事業を推進します。(事業主体:福岡北九州高速道路公社)



福岡高速3号線延伸のイメージ



空港口交差点の交差イメージ

予算 8億4,000万円

7

チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化したまちづくり



地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化

●デジタル活用支援事業

デジタルツールを活用した生産性向上を支援するため、デジタル化の進捗状況の診断を実施するとともに、人材育成や専門家による伴走支援を実施します。

予算 1,913万円

●カーボンニュートラル貢献企業販路拡大支援

脱炭素社会実現に向けた先駆的な取組みを促進するため、脱炭素に資する環境ラベル等を取得している市内中小企業の販路拡大を支援します。

予算 947万円

●商店街魅力向上支援事業

商店街の継続的な賑わい創出に向け、個々の商店街の特性と課題に応じた、魅力向上につながる取組みを支援します。

予算 4,119万円

農林水産業と その関連ビジネスの振興

●海業推進事業

漁村地域の活性化を図るため、漁港内の遊休地等の活用や民間活力の導入に取り組みます。

予算 1,603万円

●イノシシ被害対策事業

イノシシによる被害防止を図るため、被害対策の基本である「個体群管理(捕獲)」「侵入防止対策(防除)」「生息環境管理」の取組みを推進します。

予算 5,325万円

●農地活用促進プロジェクト

農地の保全や農村地域の活性化に向け、企業・団体等による農地活用の実証実験等を実施します。

予算 834万円

●鮮魚市場の機能更新・向上事業

鮮魚市場のさらなる活性化に向け、市場施設の機能更新と活性化施設の検討を進めます。

予算 2億8,933万円

新たな価値の創造と スタートアップ都市づくり

●ライフサイエンススタートアップの成長支援

ライフサイエンス分野に係るスタートアップの創出や成長を支援するため、メンタリングによる伴走支援や投資家とのマッチング等を実施します。

予算 3,000万円

8

アジアのモデル都市として世界とつながり、 国際的な存在感があるまちづくり



成長を牽引する物流・人流の ゲートウェイづくり

●博多港の機能強化

コンテナターミナルと一体となった国際物流拠点の形成を図るため、物流施設の集積に向けた基盤整備を進めるなど、物流機能の強化に取り組みます。

予算 17億9,905万円

●博多港脱炭素化推進事業

博多港におけるカーボンニュートラルポート形成に向けた取組みを官民で連携して推進します。

- ・博多港ベイサイドミュージアムにおける放射冷却塗料の実証
- ・市営渡船における省エネ改良
- ・清掃船におけるバイオ燃料の本格導入 など

予算 3億4,820万円

●空港利活用の推進等

国内線、国際線ともに豊富な路線・便数を有する福岡空港の強みを活かし、空港運営会社等と連携して航空路線のさらなる充実強化や利用促進等に取り組みます。

予算 6億132万円

国際的なビジネス交流の促進と グローバル人材にも住みやすいまちづくり

●姉妹都市アトランタ市との経済交流事業

アトランタ市との姉妹都市締結20周年を記念し、現地で開催される市民向けイベントにおいて、福岡の食をPRし、地場企業の海外展開を支援します。

予算 1,265万円

●フードエキスポ九州

福岡・九州の食の魅力を世界に発信するとともに、海外販路拡大を図るため、国内外食品商談会を開催します。

予算 200万円

●グリーンテックビジネス海外展開事業

環境分野などグリーンテック関連の地場企業の海外ビジネス展開を支援します。



予算 1,218万円

国際貢献、国際協力の推進と 国際会議の誘致

●上下水道分野における国際貢献の推進

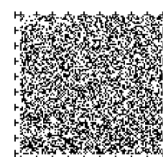
JICA(独立行政法人国際協力機構)事業等を通じて、国際貢献・国際協力を推進し、アジアをはじめ国際社会におけるプレゼンスの向上を図ります。

予算 4,214万円

●ふくおかの環境技術を活かした国際貢献・展開

国連ハビタットや環境省、JICA等と連携し、開発途上国へ技術協力を行うなど国際貢献・協力を推進し、アジアをはじめ国際社会におけるプレゼンスの向上を図ります。

予算 1,413万円



このマークは目の不自由な方などが
使う音声コードです。

認知症コミュニケーション・ケア技法

ユマニチュード®

「ユマニチュード」とは、認知症の人に優しさを伝えるコミュニケーションの技術です。

見る



見ることで相手に
伝わるメッセージがあります。

話す



ゆっくりとした穏やかな言葉は
相手に安心を届けます。

触れる



触れるときは相手の手を下から
支えることで優しさを伝えます。

立つ



1日合計で20分立つ時間を作れば、
寝たきりを予防できます。

(イラスト提供)日本ユマニチュード学会

福岡市は、認知症の人が認知症とともに、住み慣れた地域で安心して
自分らしく暮らせるまち「認知症フレンドリーシティ」を目指し、
ユマニチュードの講座を対象別に行っています。

詳細はこちら▶



ユマニチュードに関するお問い合わせ先
福岡市 福祉局 ユマニチュード推進部 ユマニチュード推進課
TEL : 092-707-3117 FAX : 092-733-5587

